

令和 7 年度 富士見小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

（1）基本目標

心豊かで健やかな体を持ち、創造性豊かに自ら学び自ら考え、主体的に判断し行動し、よりよい社会の発展を目指して、たくましく生きる児童の育成を目指す。

（2）具体目標

- 心豊かで、思いやりのある子ども（心豊かな子）
- よく学び、工夫する子ども（よく学ぶ子）
- 健康で、たくましい子ども（たくましい子）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

児童と教職員の望ましい人間関係を基盤に、確かな児童理解に裏打ちされた、一人一人のよさや強みをほめて伸ばす指導を通して、児童の多様な個性・能力を最大限に伸長する。また、支え合い高め合える集団を形成して、すべての児童が自信と誇りの持てる学校づくりを推進する。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

教育目標の具現化を目指し、教職員が一丸となって居がいと活力のある学校づくりに努める。

（1）認め励ます指導を基本とした心の教育の推進

- ・ 自己有用感、規範意識、他者を思いやる心の育成及び組織的な指導の充実
- ・ 道德教育を核に、教育活動全体を通した豊かな心やたくましい心の涵養

（2）基礎・基本の確実な習得と主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

- ・ 「宇都宮モデル」の活用を通した主体的・対話的で深い学びの推進
- ・ ICT 環境の有効活用等を通した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的充実

（3）健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成

- ・ 教科体育、元気っ子チャレンジや各種検定、食育等の校内共通した取組の充実
- ・ 危険を予知し、自らの命を守り抜くための判断力や行動力の育成

（4）教職員の資質・能力の向上と働き方に関する改善

- ・ 協働的な同僚性による校内研修や教職員どうしの学び合いの充実
- ・ 協働体制による業務の適正化を通したワークライフバランスを意識した働き方の推進

（5）地域とともにある学校づくりの推進

- ・ 地域の教育資源を生かした教育活動の展開と家庭・地域と連携した学びの実践
- ・ 学校園における小中の連携と、義務教育 9 年間を一体とした指導の推進

【宮の原地域学校園教育ビジョン】

「心豊かで輝く子どもの育成 ～ほめて伸ばす（自己肯定感を高める）～」

4 教育課程編成の方針

- ・ 新学習指導要領をはじめとして、関係法令、国、県、市の方針や重点及び本校の実情や課題を踏まえ、教育目標の具現化を目指した教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

（1）学校運営

- 確かな児童理解に裏打ちされた、一人一人のよさや強みをほめて伸ばす指導の充実
 - ・ 校内の業務の適正化や ICT 環境の有効活用を通した学校における業務改善の推進

（2）学習指導

- 自ら考え、表現し、学び合う児童の育成
 - ・ 意欲を高め、学びを広げ深めることのできる授業づくりの推進

（3）児童生徒指導

- よりよい生活集団づくりを通した、規範意識と自己有用感の育成

(4) 健康(体力・保健・食・安全)

- 体力の向上を目指して運動に親しみ、健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通、地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-(1) 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85%	①一人一人が自由に発言できるような学習集団作りに努めるとともに、ねらいを達成させるための適切な学習形態を工夫し、考えや表現を広め深める対話的活動を設定することで、コミュニケーション力を育成する。 ②課題の提示や教材の工夫をし、さらに主体的に学習に取り組めるようにする。 ③教育課程の円滑な実施のため、主体的、対話的で深い学びについての実践研究を行う。		【達成状況】 【次年度の方針】
1-(2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85% 保護者 85% 地域 85%	①体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ②児童会や清掃における縦割り班活動等を通して、相手の立場を考えた思いやりの心を育む。 ③道徳の授業において学年間でローテーション授業を行うことにより、複数の教員の目で児童のよさを見とれるようにする。		【達成状況】 【次年度の方針】
	A3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童 85% 保護者 85%	①授業や各種検定等において、児童が主体的に目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ②道徳の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、実践に向けた意欲を高める。		【達成状況】 【次年度の方針】
1-(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85% 保護者 85% 地域 85%	①運動委員会を中心に元気っ子チャレンジに挑戦する場を設定するとともに、授業において、サーキットトレーニングや活動量を確保できるような展開を工夫して行い、目標をもって積極的に運動を実施することで、体力向上への意欲を高める。 ②望ましい食習慣を身に付けさせるために、毎日の給食指導を着実に実施し、栄養のバランスについての指導を行う。 ③危機を予測し自らの命を守り抜く判断力・行動力の育成に向けて、職員全体で共通理解しながら、安全指導の充実を図ったり、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施したりする。		【達成状況】 【次年度の方針】

1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85%	①日々の学習や生活で振り返りの場面を設け、自分の成長や変化について自分自身で考えたり、友達に教えてもらったり認めてもらったりして、気付かなかった自分の成長を実感できるようにする。 ②自分の長所や短所を様々な方法で理解させるとともに、それを自分の個性として大切にしていける態度を育てる。 ③道徳や特活を通して、友達の成長を願い、励まし合い、高め合おうとする態度を育てる。	【達成状況】 【次年度の方針】
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85%	①相手意識や目的意識を大切に外国語活動の授業を通して、英語で伝え合う楽しさを感じ、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②打ち合わせを綿密に行うことでALTとの連携を充実させるとともに、外国語専科による授業を行うことで、児童の興味・関心を喚起させる授業づくりに努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85% 保護者 85%	①生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や校外学習等において、学習内容と関連させながら、児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導を系統的に行えるように努める。 ②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85% 保護者 85%	①児童が情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 ②辞典の使い方や図書資料での調べ方等について学校図書館司書を授業に活用し、図書室利用の充実を図る。 ③授業の中で1人1台端末の効果的活用を図るとともに、プログラミング教育の計画的な実践に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85%	①植物の世話やごみの分別、牛乳パックのリサイクル等を通して、環境に対する意識を高められるようにする。 ②地球温暖化に伴う過去の災害の具体事例を伝える活動や避難訓練などを通して、防災意識を高め、防災教育を充実する。	【達成状況】 【次年度の方針】
3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員 90%	①教育相談や個人懇談等を計画的に実施し、一人一人のニーズや実態を踏まえた支援に努める。 ②他学級との授業交換や学年合同の活動を行い、広く児童理解・学業指導に努め、児童が教師及び児童相互の信頼関係を深めながら、学校生活を送れるようにする。 ③学年会や校内支援会議を通して、個々のニーズや実態を把握し、外部機関や家庭との連携を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85% 保護者 85% 地域 85%	①確かな児童理解に基づいた、児童にとって居がいのある学級づくりや道徳の授業実践などを通していじめを許さない態度の育成を図り、いじめの起こらない環境づくりに努める。 ②学校生活アンケートや教育相談の実施、職員間で定期的な情報交換の場を確保することで児童や学級についての共通理解を図り、いじめの早期発見・早期対応に努める。また、いじめ等対策委員会を設置し、組織的な対応を図る。 ③携帯電話やメール等、情報モラル教育の強化に努めるとともに、「いじめゼロ強調月間」における取組や「宮っ子心の教育」に係る児童会主体の活動の充実を図り、保護者にも学年だよりなどを通じて啓発を行う。	【達成状況】 【次年度の方針】
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85% 保護者 85%	①児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに認め励ます指導を行い、居がいのある学級経営に努める。 ②教育相談、Q U調査、定期的な校内アンケート等の結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見と、校内全体での情報共有を図る。 ③必要に応じて、スクールカウンセラーや、外部機関との連携を図り、組織的に対応していく。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85% 保護者 85% 地域 85%	①学校行事等において、児童が主体的に活動する場を工夫して設定し、活気あふれる学校づくりをする。 ②誰もが居場所を確保できる学級経営に努める。 ③授業では、学習意欲を高める多様な体験的学習の工夫をする。 ④縦割り班活動や学年での活動、及び日常的な交流活動を工夫して可能な限り実施し、児童が意欲をもって活動できる場を設定する。	【達成状況】 【次年度の方針】
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化			
4-(1) 教職員の資質・能力の向上	A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童 85% 保護者 85%	①『はつきり』『じっくり』『すっきり』という指導過程の授業を展開し、教材研究に努めるなどして分かる授業の充実を図る。 ②個・学級・学年の実態を把握するとともに、上学年生以上の算数でT Tや少人数指導など、学習形態の工夫を図り、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 ③教員の指導力の向上を目指し、研究授業や授業後の研究会及び、実技研修等を実施して、校内研修の充実を図る。 ④各学年の発達段階に応じて宿題の出し方を工夫したり、「家庭学習のすすめ」を家庭に配付したりして、保護者の協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】

4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 85%	①互いを認め合い、補い合い、高め合う同僚性を有する教職員を目指し、課題への対応や行事の運営等に、全教職員が一丸となって取り組む。 ②自己評価シートの作成を通して学校運営への参画意識をもち、担当校務分掌に主体的に取り組む組織的な運営に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
4- (3) 学校における 働き方改革の推進	A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員 85%	①学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。 ②業務改善に向け、各種行事等の内容の精選や実施後に反省を行うなど、実施方法の改善を行う。 ③ミライム掲示板による教職員間の連絡や、さくら連絡網によるペーパーレス化に向けた取組を行う。 ④月1回、「リフレッシュウィーク」を設け、働き方改革への意識化を図る。	【達成状況】 【次年度の方針】
5- (1) 全市的な学校 運営・教育活動の 充実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85% 保護者 85% 地域 85%	①地域学校園教育ビジョンに基づき、各分科会で適切なテーマを決め、適切な活動を行う。 ②小中合同の取組を行う。(あいさつ運動、お弁当の日、小中統一給食献立の実施、食育だよりや学校園図書館だよりの発行等) ③6年生の進学先中学校訪問により、進学への不安感を解消し、希望・期待感を高める。 ④小中一貫教育に関する取組について、各種便りや学校ホームページで地域や保護者に発信する。	【達成状況】 【次年度の方針】
5- (2) 主体性と独自性 を生かした学校 経営の推進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85% 保護者 85% 地域 85%	①地域協議会等と連携を図り、新たな地域人材の募集などを行いながら、学校支援ボランティア（学校のまわり探検の補助や各種学習支援ボランティア等）を活用した授業を計画的・継続的に実施する。 ②地域にある県立博物館・中央公園・市立図書館・文化会館・气象台等の文化施設を積極的に授業に活用する。 ③企業等との連携を図った体験型学習を積極的に実施する。 ④地域協議会・家庭・地域・企業等と連携した教育活動に関する取組について、各種便りや学校ホームページで地域や保護者に発信する。	【達成状況】 【次年度の方針】
5- (3) 地域と連携・協働 した学校づくり の推進			
6- (1) 安全で快適な 学校施設整備の 推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員 85% 保護者 85% 地域 85%	①日常的に校内巡視を行うと共に定期的な安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③さくら連絡網での保健だより等を活用して、教職員と保護者で共通理解を図りながら、熱中症予防対策、感染症蔓延予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】

6-(2) 学校のデジ タル化推進	A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワー クの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができています。 【数値指標】 教職員 85%	①各クラスで活用できるよう I C T 機 器の充実を図るとともに、I C T 支 援員と連携し、1人1台端末の効果 的な活用について校内で研修を行う 等、I C T 機器活用における環境整 備に努める。 ②各学年の授業内容との関連に配慮し た教育図書の整備充実等、学校図書 館の環境整備に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
小・中学 校、地域 学 校 共 通、本校 の特色・ 課題等	B 1 児童は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85% 保護者 85% 地域 85%	①あいさつの大切さについて啓発し たり、教職員が積極的に児童にあい さつをしたりすることで校内外での あいさつの習慣が十分に身に付くよう 指導する。 ②あいさつボランティアや委員会活 動、学級での日常生活など様々な機 会を通じてあいさつの推進を行い、 あいさつの習慣化を図る。 ③よりよいあいさつや返事の仕方、言 葉づかいについて日常の指導の徹底 を図る。 ④宮の原地域学校園全体であいさつ運 動を実施する。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B 2 児童は、きまりやマ ナーを守って、生活 をしている。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85% 保護者 85% 地域 85%	①児童の規範意識を高め、皆が安心・ 安全な学校生活を送れるよう、職員 が「みんなのやくそく（生活編）」の 徹底を図ったり、生活当番活動によ る日常の生活指導の充実に努めたり することで、同歩調で組織的・継 続的な指導を行う。 ②道徳科の授業などを通して、児童が ルールやマナーの意味や必要性につ いて理解を深め、生活の中での実践 力を育成する。 ③保護者との連携・協力を図り、児童 理解に基づく個に応じた適切な対応 に努める。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B 3 教職員は、児童の努 力の過程や以前と比 べて向上したことを 認めたり、児童が活 躍できる場を与え りしている。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85%	①児童生徒が自分を見つめる場や機会 を設定することにより、自己理解や 自己受容を進める。 ②児童生徒の長所や進歩、頑張りなど を認め、自分への肯定的な気付きを 促す。（自己肯定感） ③係活動や当番活動の充実とグループ 活動の意図的設定により、他者とか かわる中で、自分のよさに気付かせ るようにする。（自己有用感）また、 集団活動の中で個に応じた役割を設 定することにより、所属意識を高め る。（自己有用感） ④児童生徒の短所などを受容するとと もに、短所も見方を変えたと長所 になるという「リフレーミング」の考 えを生かす。	【達成状況】 【次年度の方針】

	B 4 児童は交通ルールを守って安全に登下校している。 【数値指標】 児童 85% 教職員 85% 保護者 85% 地域 85%	①地域・保護者・教職員が一体となって登下校指導や月1回の集団下校指導を実施する。その際、地区担当教員が登下校の様子を聞き、必要に応じて指導したり、一緒に下校したりして安全な登下校ができるようにする。 ②関係機関の協力を得て、交通安全教室を計画的に実施することで、自他の安全を守り、実践的な理解が深められるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B 5 児童は学校や地域の為に積極的に働いている。 【数値指標】 児童 85% 保護者 85% 地域 85%	①道徳の授業や係活動、委員会活動を通して、学校に愛情をもち、学校のために働き、学校を大切にしようとする心を育てる。 ②縦割り班清掃にめあてをもって取り組むことで、よりよい環境づくりに進んで取り組み、自分たちの学校を自分たちの手できれいにしようとする態度を育てる。 ③校外の清掃活動として、なかよし通りや中央公園の「クリーン活動」を実施する。活動の前に目的意識をもって取り組むことができるように指導し、活動後には振り返りを丁寧に行うことで、人のために働く喜びや地域への愛着を高められるようにする。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B 6 学校・保護者・地域が一体となって、読書活動の充実に努めている。 【数値指標】 児童 85% 保護者 85%	①クラスごとに落ち着いた雰囲気での読書を週2回、行うとともに、図書室利用の時間の活用を工夫する。 ②各学年オープンスペースに読書コーナーを設置したり、おすすめの本を奨励したりし、読書に親しめる環境を作る。 ③図書委員や教職員による読み聞かせを月1回程度実施する。 ④長期休業中には、親子読書を実施し、読書活動への関心を高めるとともに、読書カードを掲示して、様々な本に興味をもたせる。	【達成状況】 【次年度の方針】
	B 7 教職員は、ほめて伸ばす指導に努めている。 【数値指標】 児童 85% 保護者 85%	①長所を伸ばさせるという視点に立ち、児童のよさや得意なことを見つけ、それをほめて伸ばす指導を行う。 ②「まごころカード」を活用し、児童のよさや頑張りを積極的に称賛するとともに、豊かな心を育てる小さな親切運動の推進を図る。 ③学校生活における児童の頑張りが活躍を認め、称賛する表彰制度を行ったり、ホームページや各種たより等を利用して家庭や地域に知らせたりする。	【達成状況】 【次年度の方針】

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

7 学校関係者評価

--

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

--